

障害者スポーツに対する特別支援学校教員の関わり方と 学校における生徒への取り組み

○渡邊貴裕* 鈴木宏哉* 杉岡千宏** 杉浦采夏** 熊谷亮*** 尾高邦生**** 橋本創一*****

*順天堂大学 **東京学芸大学大学院 ***福岡教育大学 ****東京学芸大学附属特別支援学校 *****東京学芸大学

KEYWORDS : 特別支援学校・障害者スポーツ・学校体育

【目的】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた準備がすすめられる中、障害者スポーツの推進に関して様々な課題が提案されている。その課題の一つに障害者アスリート選手の発掘・育成・強化があげられる(日本パラリンピック委員会,2016)。障害者アスリートの育成は、限られた人材に着目し、特別なトレーニングを行うだけではなく、障害者スポーツの裾野を広げていくことが最も重要である。そのためには現場レベルでの取り組みが不可欠であり、学校教育とりわけ学校体育の充実が求められるのは言うまでもない。特に障害のある子どもに対して学校体育を展開していくには、障害者のライフステージ全体に着目し、多様なスポーツ環境を活用しながら、生涯にわたって運動やスポーツに親しむことができるよう考慮していく必要がある。近年、学校教育活動においては、「オリンピック・パラリンピック教育」(文部科学省,2016)が展開され、障害のある児童生徒もスポーツへの多様な関わり方を学ぶ機会が増えてきている。笹川スポーツ財団は平成24年に文部科学省の委託を受け特別支援学校のスポーツ環境(体育の授業や部活動・クラブ活動以外のスポーツ活動等)の調査を実施し、こうした環境が整えられてきていることを指摘している。しかしながら、体育の指導にあたる教員が、児童生徒の将来を見据えて、こうしたスポーツ環境をどうとらえ、活用し、平素の授業を展開しているのかについては明らかではない。

そこで本研究では、全国の特別支援学校高等部を対象に調査を行い、教員と障害者スポーツとの関わり、オリンピック・パラリンピック教育、障害者スポーツ種目の授業への導入等に関する情報を整理、把握することで、特別支援学校における学校体育の在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

【方法】

1. 調査対象：平成27年度全国特別支援学校一覧を基に、全国の特別支援学校高等部1,200校(分校、分教室を含む)を対象とした。
2. 調査手続き：2016年7月、調査対象校に質問紙を郵送し回答を求めた。各校1名の保健体育科担当教員に回答を依頼し、返送のあった680校(回収率56.6%)を本研究の分析対象とした。
3. 調査内容：質問紙調査の主な調査項目は、教員の障害者スポーツへの関わり、パラリンピック等を題材とした学習の実施の有無、保健体育科授業における障害者スポーツ種目の導入の有無、地域のスポーツ大会やパラリンピック等への出場・参加についての働きかけ、生徒のスポーツ活動を充実させるための課題等である。
4. 倫理的配慮：回答結果は個人や機関名などが公表されたり学術的な目的以外に使用されたりすることはない旨を明記し、同意が得

られた場合のみに回答を求めた。

【結果及び考察】

図1は、「教職員の障害者スポーツとの関わり」についての調査結果である。障害者スポーツ大会などの運営への関わりが、回答者の50.0%(340人)、また障害者スポーツ競技団体の運営への関わりが40.4%(275人)と、多くの教員が学校体育以外での障害者スポーツ・レクリエーション活動への支援・協力を行っていた。

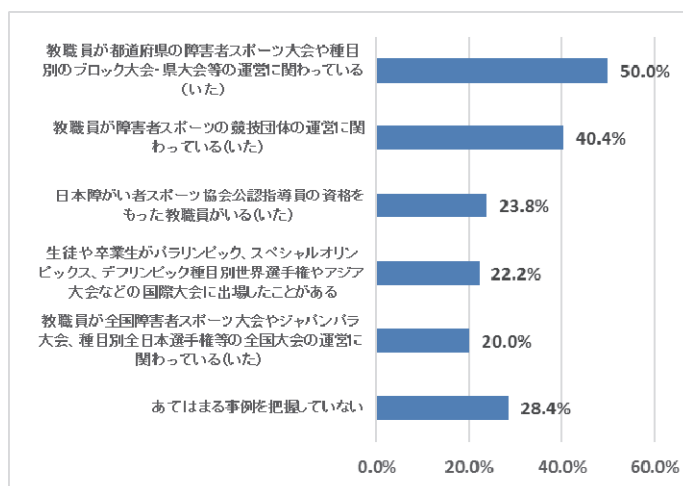


図1. 教職員の障害者スポーツとの関わり (複数回答) n=680

一方、学校体育については、「保健体育科の授業において、パラリンピック等の出場を視野に入れた各競技種目や、障害者のために独自に作られたスポーツ(ボッチャ、フライングディスク、ゴールボール等)、を生徒に指導していますか」の設問に対して、59.1%(402校)の学校が、「指導している」と回答した。ところが、「指導している」学校で「学校体育で指導している競技種目について、一部の生徒を公共の施設や障害者スポーツセンター等に連れて行く等して行う(部活動は除く)」の回答は11.4%(46校)にとどまっていた。また本調査では、5.9%(39校)の学校に、パラリンピック等の大会に参加している生徒が在籍していた。ところが、生徒のパラリンピック等への出場・参加と学校体育及び教職員の働きかけについて質問したところ、「(学校での働きかけがパラリンピック等への出場に)大いに影響している」と回答した学校は38.4%(15校)と少なく、学校での障害者スポーツに関する指導が学校以外での生徒の障害者スポーツ実践にあまり結び付いていない実態が明らかとなった。

本研究はJSPS 科研費17K04952の助成を受けて行った。

(WATANABE Takahiro, SUZUKI Koya, SUGIOKA Chihiro, SUGIURA Sayaka, KUMAGAI Ryo, ODAKA kunio, HASHIMOTO Soichi)